浄土宗開宗八百五十年慶讃法灯リレー法要表白

恭しく惟みるに、宗祖（元祖）圓光和順法爾大師法然上人は、勢至の垂迹として美作国漆間家に降誕し給い、悟りを求めよとの父君の遺訓忘れがたく、御年十五にして叡山に登り、出家受戒して修学に励み給えり。

その学識は顕密に亘り、智慧第一の誉れは三塔に高く、末は天台の棟梁にと望まれしも、名利を厭い西塔黒谷に隠遁して、ひたすら凡夫往生の道を求め給う。

更には南都に遊学して碩学の教えを請うも、求むる道を得ることは叶わず、再び黒谷に帰りて、嘆き嘆き経蔵に入り、悲しみ悲しみ聖教に向かい給えり。

かくして一切経を披閲すること五遍、とりわけ善導大師の御書を繙くこと三遍、遂に承安五年春、観経疏一心専念の文に由り、専修念佛に帰して浄土の宗を明かし、凡入報土の道を開き給えり。

爾来、称名念佛の声は四方に満ち、大衆斉しく光明

摂取の法益を受くることを得たり。

今、開宗八百五十年の佳辰を迎うるに当たり、宗祖(元祖)法然上人開宗の御心に思いを馳せ、黒谷青龍寺より法灯を戴き、祖山知恩院の御影堂に捧ぐ。仍って弟子〇〇等、祖恩に酬いんが為、心新たにこの法灯を受け継ぎ、〇〇教区(〇〇寺)の大師前に献じて、開宗報恩の法要を修し、併せて檀信徒に結縁交名を勧め、念佛響流に資せんことを希い奉る。

仰ぎ願わくは大師の慈光益々輝き、遺法の徳風弥々偏く、念佛の一行十方に弘まり、弥陀の摂化末代に及ばんことを。

維時　令和　年　月　日

遺弟　〇譽〇〇　敬って白す

※この表白は宗令「開宗八百五十年慶讃法要表白」を基にした文例です。趣旨に合わせて適宜変更の上ご使用ください。

※このまま読まれる場合は当該教区・寺院等で取捨選択してご使用ください。